

## 指定管理者評価シート

### 一 管理運営の状況

1	施設名	仙台文学館
2	指定管理者	公益財団法人仙台市市民文化事業団
3	指定期間	平成29年4月1日～令和4年3月31日
4	施設の利用状況	《利用者数》 令和元年度 50,438人（前年度比93.1%） 平成30年度 54,225人 平成29年度 62,267人
		《事業》 ・施設の管理運営 ・特別展等の企画及び開催 ・文学資料の収集、保管
5	収支の状況	《費用》 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 指定管理者に支払った費用 204,027千円 (202,584千円)</li> <li>・ その他市が負担した費用 1,016千円 ( 2,251千円)</li> </ul>
		《収入》 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 使用料収入 3,487千円 ( 6,748千円)</li> <li>・ その他収入 1,406千円 ( 1,030千円)</li> </ul>
6	利用者の声	《実施状況》 <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ご意見箱を設置して、常時意見をいただいている。</li> <li>・ 特別展や企画展ごとのアンケートを実施。</li> <li>・ 施設利用者アンケートの実施（令和元年12月）</li> </ul>

### 二 管理運営に係る評価

（モニタリングシートの結果によって評価）

評価分野		所見	評価
I	総則	施設の設置目的や基本方針について、職員間でしっかり理解しているとともに、利用者へ対しても適切に周知している。また、来館者が施設を利用しやすい環境の整備や文学普及のための取り組みを効果的に行っている。	27/27
II	施設の運営管理体制	職員の業務実績や配置、仕様書や事業計画に即した業務の実施状況等は適切である。また、定例ミーティングにより個人情報の取り扱いや事故発生時の対応などを職員全体で共有し、日頃から適切な施設運営に取り組んでいる。	30/30
III	施設・設備の維持管理	委託業者からの点検結果のみならず、日頃から職員による自主点検も実施し、施設の不具合などを早期に発見できる体制が取られている。不具合や改善が必要と考えられる事案が発見された場合、市への迅速な報告とともに適切な対応が取られている。	24/24
IV	サービスの質の向上	新任研修、OJT等により接客マナーや必要な情報をしっかり身に付けており、受付スタッフや職員の利用者への対応は非常に丁寧である。館内における情報発信のほか、ホームページやフェイスブック、ツイッター、市政だより等の幅広い広報手段を活用し、広い世代へ情報が行きわたるよう取り組んでいる。毎週、委託業者を含めた全職員のミーティングを実施し、施設の状況や利用者の声、課題等を共有しており、サービス水準の向上が常に意識されている。	28/28
V	施設固有の基準	業務における事前の市との協議及び承認手続きが漏れなく実施されている。一方、経理事務に一部不備がありチェック体制の見直しが図られた。定期的な自主点検の実施により、施設の不具合を速やかに察知し、応急措置や市への報告等、適切になされている。展示内容については、常設展示室のリニューアルが行われ、文学を幅広い視点で捉えられるよう、さらに工夫されたものとなった。来館者のニーズを反映させる取り組みや新たな客層を取り込むための企画を実施しており、初めての来館者が増加し、施設の活性化がなされている。また、講座においては、小説、詩、短歌等、様々な文学分野の講師を招き、知識の向上のみならず、実践的な創作等も行うなど、文学を学びたい人々に多くに貢献できる優れた内容となっている。	47/48

### 三 評価総括

《指定管理者（（公財）仙台市民文化事業団）による自己評価》
<p>施設の管理運営については、仙台市の施設所管課と定期的な打ち合わせを主とした情報交換を行い、関係法令並びに協定書等に基づき適切に運営を行った。また、内部でも毎週定期的に各委託業者の事務連絡及び職員全員で情報交換を行って連携して業務にあたった。観覧者については、16,793人となり、30年度と比べてやや減少したが、開館20周年の節目の年として、10年ぶりにリニューアルした常設展示室では、震災をテーマにしたコーナーを設け、新たに宮城ゆかりの漫画家・いがらしみきおのコーナーも加えた。また、初代館長井上ひさしの評伝劇を扱った特別展を二期にわたって開催したほか、秋には、小池館長の企画監修のもと、特別展「斎藤茂吉ーそのひとすぢの道」を開催し、山形出身で、日本を代表する歌人の斎藤茂吉の生涯と足跡を豊富な資料で紹介した。他方、夏は、絵本作家でアーティストのスズキコージの展示を開催し、美術的要素の強い展示で新たな客層の開拓に努めた。リニューアルした常設展示も、漫画などの要素を取り入れたものとなっており、20年を経た文学館のこれからの展示の可能性を広げていく1年となったと考えている。</p> <p>入館者については50,438人、イベント参加者数は9,153人で、どちらも30年度より減少しているが、毎年開催している「小池光短歌講座」や「仙台文学館ゼミナール」などは、例年なみの参加者数を数えている。文学資料の収取・保存については、令和元年度は購入:1,006点、寄贈:976点を受け入れた。資料総数は約130,500点にのぼり、多くの方々の信頼を得て実績を積み上げている。</p> <p>施設管理料確定額は、204,027千円と昨年度を1,443千円ほど上回っているが、原因は、酷暑・厳寒のため光熱費の増大が主である。今後の大規模改修を見据えて計画的に修理を実施し、様々な問題に適時に対応していきたい。</p>

《施設設置者（仙台市）による評価》	総合評価
<p>施設の運営管理に関しては、経理事務に不備があったがその後チェック体制の見直し等が行われ、対策が実施された。それ以外では、開館や施設貸出、保守点検や設備修繕・清掃等を含む施設の維持管理、個人情報保護や情報セキュリティ・情報公開への対応、事故や災害時等の危機管理体制の構築、その他施設運営に必要な書類の整備、諸手続きなど、関係法令や協定書に基づき、いずれも適正に実施されている。定例ミーティングや研修等を通して、業務の手順や必要な情報について職員間で共有されており、組織的な運営管理体制が構築されている。また、SNSの活用など、情報発信についても積極的である。</p> <p>常設展示室のリニューアルが行われ、文学を幅広い視点で捉えられるよう、さらに工夫されたものとなった。また、夏休みの時期には美術的な要素をより多く取り入れた展示を行うなど、新たな客層を取り込むための企画を実施しており、初めての来館者が増加し、施設の活性化がなされている。文学館の設置目的である「文学に関する知識の普及、利用者の教養の向上」について、幅広い客層を対象として捉えており、施設の魅力をより多くの方々に伝えていくことが十分に意識されている点を高く評価したい。</p> <p>講座の内容についても、様々な講師を外部から招き、幅広い視点から文学を学ぶことのできる内容となっており、職員と文学関係者との豊富なネットワークが十分に活かされ、利用者へ還元されているものと捉えている。</p> <p>今後とも魅力ある展示を企画いただくとともに、来館に繋がるような広報のあり方について十分考慮しながら取り組んでいただきたい。また、講座の実施や資料収集等、地域における文学知識の涵養に資する取組みも、当館の存在意義を高めるものとして、今後も継続していただきたい。</p>	A

### 四 その他特記事項

（上記評価項目の他に、指定管理者の優れた取組み等、特に記載すべき事項があれば記載する）

特記事項

◎ 評価担当課（施設所管課）：文化観光局文化スポーツ部文化振興課